

2018 年度 飛騨古川 U-13 交流大会 飛騨古川フレッシュ審判員スクール研修会 報告書

茨城県サッカー協会 3級インストラクター 長山 徹

3級審判員 吉田 天

1. 【日程】

2018年5月4日(金)～2018年5月6日(日) 2泊3日

2. 【大会名】

飛騨古川 U-13 サッカー大会 (愛知 FC 主催)

3. 【場所】

〈実技〉岐阜県飛騨古川ふれあい広場 他3会場 〈講義〉岐阜県飛騨古川文化交流センター

4. 【参加者】

ユース審判員 12名 (茨城県 吉田 天)

インストラクター 14名 (茨城県 長山 徹)

5. 【研修会目的】

若手審判員の発掘・育成

6. 【指導指針】

～人として行動できることの重要性を身に着ける～

①審判員はなぜ必要があるのか？

②判定の為に運動量とポジショニング基本的な動きを習得させる

③ユース審判員の魅力を養う

7. 【実践研修】

各会場にて、主審を1日1～2試合担当



8. 【講義】

5月4日(金) 「レフェリーは必要か?を考え実践」

- ①「挨拶及び今回の研修会について」(杉浦氏)
- ②「なぜ走るのか?」(上田氏)
- ③「走るためのポイント」(増田氏)

5月5日(土) 「主審の動きの実践」

- ①「ポジショニングと運動量の確保」(高澤氏)
- ②「ポジショニングについて、試合の分析」(三浦氏)
- ③「審判活動について」(小椋氏)

5月6日(日) 「ポジショニング、運動量の確保の実践」

- ①説得力ある判定の為に欠かせない運動量の確保
- ②閉校式 研修会振り返り



9. 【総括】

【3級インストラクター 長山 徹】

今回愛知県サッカー協会の交流プログラムに参加させて頂きました。

当研修会は過去15年に渡り、若手審判員の発掘及び育成の場として位置づけられています。2004年から継続して開催している愛知県の審判育成の基幹事業です。この研修会の卒業生の中からはJリーグ主審を務める方も誕生しており、愛知県の上級審判員の登竜門になっています。

今回の研修会の目的が「若手審判員の発掘・育成」です。参加したユース審判員は皆意識が高く学ぶ姿勢が素晴らしいと感じました。講義では積極的に発言し、審判員同士で意見を出し合って切磋琢磨していました。指導方針は「人として行動できることの重要性を身に着ける」。人としてどうあるべきかを私自身考えさせられました。挨拶、マナー、気遣い、などサッカー以外の事も指導をしている研修会でした。こういった基盤がレフェリングに必ず出てくると感じました。

愛知県サッカー協会の方々には本当にお世話になりました。愛知県サッカー協会の方々はこの研修会を通じてサッカー審判技術だけではなく、人として大きく成長する事を願っていると仰っておりました。

今回当事業に参加させて頂いた愛知県サッカー協会の皆様、茨城県サッカー協会の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

【3級審判員 吉田 天】

今回は他県の研修会への参加ということで多くの刺激を得ることができました。実技研修では、試合終了の後に自分での反省、自己評価をもとにインストラクターと振り返りを行いました。自己評価を文字に起こすことにより、課題の整理をスムーズに行うことができました。次の試合ではそれを意識して、ステップアップできるように取り組みました。講義では、インストラクターの方の課題に対して積極的に挙手をし、食い入るように参加していたのが印象的でした。インストラクターの方もそれに対し熱心な姿勢で対応してくださっていました。

また、今回の研修会では「人として」というテーマにも重きを置いており、日常生活での気づきの重要性も学ぶことができました。他県での研修会により、多くのコミュニケーションが図れたと思います。今回の研修会で学んだことを今後の活動に生かしていきたいと思います。最後にこの研修会のためにご尽力いただいた愛知県協会の方々及び茨城県協会の方々に感謝したいです。



以上